



## 上手に失敗ができる場所



日頃は「子供の居場所づくり事業」にご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございます。

**突然**ですが、皆さまは大人になるまでに、どれだけ失敗を経験してきましたか？勉強だけでなく、遊びや友達付き合いなど様々な場面で、不覚にも失敗をしてしまい、後悔をされたことがあったと思います。だからこそ、子どもたちには自身の経験を踏まえてのアドバイスや助言をされている事と思いますが、実は“**その経験は必要な学びだった**”“**失敗によって成長した**”という事も、また気付いておられると思います。

ところで、最近はお子たちに何か問題が起こったとき、自分の力で乗り越えられない子が昔より増えているような気がします。また、失敗を恐れる子も増えているようです。例えば、友達とトラブルになっても自分から上手く謝れない子が増えたり、自分の気持ちを上手く伝えられない子をよく見かけます。これには様々な原因が考えられますが、親御さんは人に迷惑をかけることを気にし過ぎたり、お子さんのことを大切に思うばかり、幼少期から様々なケースで先回りをしてしまい、その結果、失敗から学べるチャンスを逃してしまっている事があると思います。

**先日**、ある家庭教育講演会で「ミニ・シティ」という取り組みがある事を知りました。その取り組みでは、子供たちだけで町を作り、自分で考えた職業で物を売ったり、サービスをしたりして、お金を稼ぐという職業体験をします。もちろん大人は口出ししません。当然、需要がなければ倒産してしまいますが、倒産した子は、まわりの子たちの動きなどを見て何をすれば稼げるかを考え、新しい職業で再挑戦するというものです。いわば失敗や成功を繰り返しながら、仕事の必要性や新しい職業を創り出す発想を学ぶと同時に、失敗してもリカバリーをすることができることを学べる場なのだと思います。

**最近**、AI（人工知能）の進化によって、将来、今ある仕事の半分近くが無くなると、よく言われていますが、今の子供たちが社会に出る頃には、「この仕事に就けば大丈夫」というものは無くなり、異次元の社会に変貌しているかもしれません。「ミニ・シティ」のような失敗も経験し、自分の力でリカバリーすることを学ぶ場は、もしかすると、これからの子供たちにとっては、ますます重要になるかもしれません。

子供の居場所づくり事業では、明らかな危険要因は極力取り除きますが、多少のケガは、子供たち自身が大きなケガに備えるための必要な体験と捉え、スタッフには緩やかに見守りを行ってもらっています。ケンカも防ぐというより、どうしたらお互いに仲直りができるかなど、極力、自分たちの力で解決できる事に力点を置いています。このように、当事業は、子供たちをお預かりするという場ではなく、社会教育の視点で子供たちの育ちにつなげるために、“**上手に失敗ができる場所**”を目指しておりますので、これからもご理解をよろしくお願いいたします。